

事例
A-⑥八代商工会議所
晩白柚（ばんぺいゆ）を活用した農商工連携支援

1. 面的支援の概要

(1) 支援のきっかけ

八代商工会議所が日奈久（ひなぐ）温泉との本格的な関わりを持ったのは、平成20年度地域資源∞全国展開プロジェクト事業である。この年度の事業名は「路地裏ツーリズム日奈久」で、八代市内にある開湯600年を超えた日奈久温泉地域の異空間・非日常性や古き良きまちという特色ある地域性をモノ・サービスの開発やプロモーションを通してブランド化しようとして実施した事業が支援の始まりであった。

(2) 支援のプロセス・アプローチ法

① 支援プロセス

平成20年度のプロジェクトでは、路地裏ツーリズム整備とまち歩きシステムの磨き上げが行われ、また特産品である晩白柚を使用したスイーツが商品化され、日奈久「地域ブランド」のプロモーションが展開された。

平成20年度の日奈久地域まち歩きルート開発をうけ、平成22年度には「晩白柚アロマと湯治文化を活用したやつしろ式農商工連携プロジェクト」を立ち上げ、∞全国展開プロジェクトに採択された。

プロジェクトの具体的テーマは二つあり、①八代産晩白柚の香りを活かした商品開発による癒しの地域ブランドイメージの形成、②健康と歴史をテーマとした「日奈久温泉マイスター」の育成による日奈久温泉の地域ブランド確立であった。

①の商品開発では、晩白柚の果皮から抽出したアロマオイルと日奈久地区の温泉水などを原料に「晩白柚せっけん『ゆ』」が開発された。②の温泉マイスター育成では、4回のマイスター講座が開催され、地元や県内から多数の受講生が集まり、マイスターの認定が行われた。

② アプローチ方法

複数年の補助事業を活用して、地域資源を編集して特産品やツーリズムの可能性を模索してきた。その後顧客の反応を分析して、地元特産の「晩白柚」にスポットをあてて複数の商品開発を行いながら晩白柚のブランド化に商工会議所自らが販売主体となって認知度拡大に取り組んでいる。

(2) 支援内容

① 地域ブランド化を目指した複数の商品開発

平成23年から「晩白柚せっけん」の販売を開始した。平成24年からは晩白柚せっけんの販売を継続するとともに、県からの補助金を活用して新たな新商品「晩白柚入浴剤」と「晩白柚カクテル（マキシト）」の開発に成功し、平成25年から販売を開始した。

② 県内外での積極的な広報・PR活動

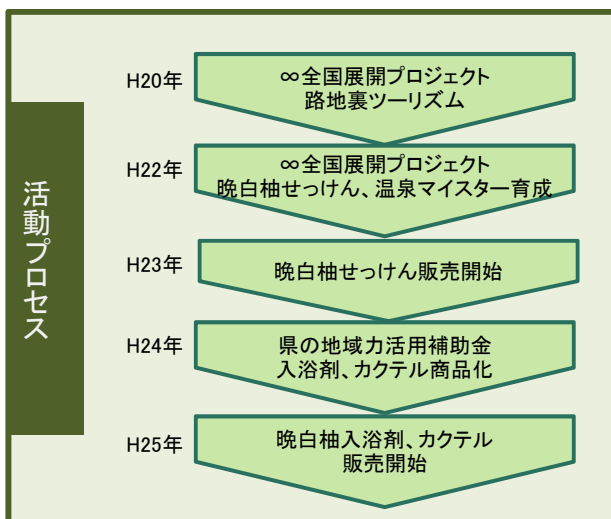
晩白柚せっけんの販売に際し、地元旅館、ホテル、物産館等で販売するとともに、県内外の商談会にも積極的に参加し、広報活動を実施した。NHKなどからのマスコミにも取り上げられ、県内はもとより全国からの問い合わせがあり、晩白柚の認知度拡大に寄与している。



八代市内にある日奈久温泉

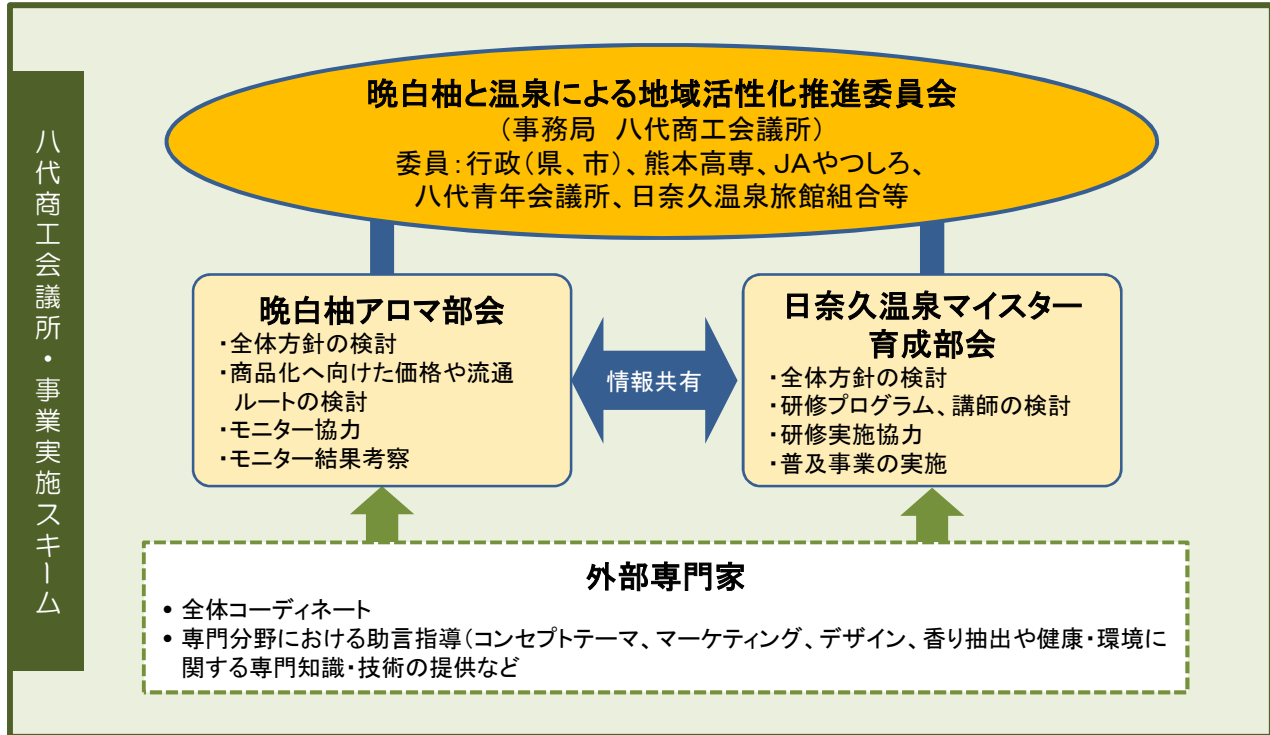


晩白柚



八代商工会議所
晩白柚（ばんぺいゆ）を活用した農商工連携支援

2. 支援組織・連携スキーム



(1) 商工会議所がプロデュース機能を発揮

八代商工会議所は、平成20年度の∞全国展開プロジェクトから一貫してプロデュース機能を担ってきている。地域のメンバーを集め、地域資源を掘り起し、編集して地域ならではの特産品を開発して、そのブランド化を推進してきた。

またプロモーション活動を積極的に行い、晩白柚の名前を全国に知らせる活動を行ってきた。また、開発された商品の販売についても自らが販売の窓口機能である「晩白柚アオマ事業部」を会議所内に設置して全国からの注文に対応している。

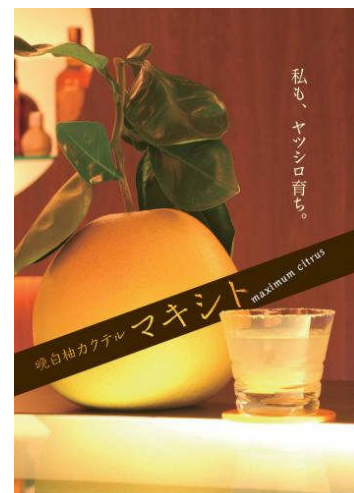
(2) 連携スキーム

本活動は、来訪者減少に苦しむ温泉街の女将さん達が地元の地域資源を活用して以前のような元気な地域を取り戻そうと商工会議所に話しかけてきたことが始まりである。

その動きを商工会議所が行政やJA、熊本高専等の協力を得て商品開発へと事業化したものである。地域活性化委員会を柱に2つの専門部会を設置し、年間で計10回の部会を開催して試作品開発とモニターを行い、更にそれらの意見を集約して、翌年の販売開始を実現させたことは、まさに商工会議所を中心とした関係者の連携の結晶といえる。



「晩白柚せっけん『ゆ』」(左)と「ばんぺいゆ風呂のかほり」(右)



晩白柚カクテル「マキシト」

八代商工会議所 晩白柚（ばんぺいゆ）を活用した農工商連携支援

3 成果

① 事業の成果

平成20年度から始まったプロジェクトによって、日本でも有数の生産を誇る「晩白柚」を活かした商品開発そして販売実現にあたり、商品企画、コンセプトの整理、形態、価格、デザイン、コピー等、商品開発を行う際の基本的流れを経験し、立場の異なる関係者によって検討を行い、まさに地域が一体となって商品開発を行った。

今回の取組の中で、日奈久温泉の旅館の女将さん達がアロマ抽出のために、最も手間のかかる晩白柚の皮むき作業に取り組んでくれた。そしてこの事業から派生して、晩白柚アロマを使ったハンドクリーム作り体験を実施するなど2次的なおもてなしの動きにつながった。

また、晩白柚生産者の方々にも意識の変化が見られ、これまで廃棄されていた型崩れや成熟前の摘果した晩白柚の新たな活用法を知ることとなり、自分たちの生産する晩白柚が地域のブランド価値を高めるということを知る機会ともなった。

また、本事業では熊本高専八代キャンパスの技術協力を得て、アロマを抽出するための水蒸気蒸留装置を開発することができた。産学官の連携が花開いたと言える。

② 順調な商品の売れ行き

「晩白柚せっけん」の売れ行きも当初から好調であったが「晩白柚入浴剤」もそれを凌ぐ売上で推移している。入浴剤は約3万個の販売実績となっている。「晩白柚カクテル」は地元晩白柚農家のご婦人で結成された「オレンジ会」で販売、市内の約50店舗で取り扱いされている。



八代商工会議所の八田事務局長(右)と池部経営指導員(左)

4 今後の計画

① 更なる商品開発の期待

現在までに晩白柚の香りを活かした3つの商品が開発され、商工会議所によって販売されている。今後も更なる晩白柚関連商品の開発が期待される。商工会議所では晩白柚製品専用のホームページ（<http://8246cci.or.jp/banpeiyu/index.php>）を開設し、全国への販売及び口コミや評価を声を拾うなど情報収集に努めている。

② 八代市民積極的参加の地域づくり

一連の事業活動により、晩白柚のブランド化に関する機運が高まってきたことは大きな収穫といえる。今後は晩白柚の香りを活かした癒しの地域ブランドイメージを作り上げるために、更なる裾野の広がりが必要であり、八代市民が自信を持って語れるような地域づくりを進めていく考えである。

5 地域活性化のポイント

- ① 商工会議所が事務局となって、事業全体を統括し、支援機関のとりまとめ、参画事業者のとりまとめを行ってプロデューサー機能を担っている。
- ② 商工会議所の経営指導員自らが広報・PR活動を行い、NHKを始めとしたメディアから取り上げられている。
- ③ 国や県の施策事業をうまく活用して複数年に渡る支援事業を運営して、事務処理を一手に引き受けている。
- ④ 参画者が一緒になって地域のことを考えて、地元の地域資源をうまく組み合わせて新しいモノ、コトを創りあげている。